

第5回（仮称）磐田市協働のまちづくり基本条例策定検討委員会 議事録

日時	令和4年3月25日（金）午後1時30分～午後3時
場所	磐田市役所本庁舎4階 大会議室
出席状況	<p>委員</p> <p>日詰 一幸（静岡大学学長）</p> <p>村上 勇夫（磐田市自治会連合会会長）</p> <p>寺田 辰蔵（磐田市自治会連合会副会長）</p> <p>藤田 允（竜洋住みよいまちづくり協議会会長）</p> <p>青野 博美（豊岡中央地域づくり協議会会長）</p> <p>三輪 邦子（NPO 法人磐田まちづくりネットワーク代表理事）</p> <p>村田 建三（NPO 法人いきいき・いわた理事長）</p> <p>三上 和代（地区社協連絡協議会会長）</p> <p>阿部 俊典（公募委員）</p> <p>飯田 佳一（公募委員）</p> <p>吉添 繁雄（磐田市南交流センター センター長）</p> <p>事務局</p> <p>地域デザイン推進室：宮本室長、太田参事、山田主査、杉田主任</p> <p>地域づくり応援課：坪井主任、藤 副主任</p>
傍聴者	2人
議事内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 これまでの経過</li> <li>2 前回の委員会における意見等の対応及びアンケートの状況</li> <li>3 今後の予定</li> <li>4 その他（情報交換等）</li> </ol>
録音の有無	有
発言者の記録	要点記録
会議記録	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会（事務局） <ul style="list-style-type: none"> <li>それでは、皆さん改めましてこんにちは。定刻より少し早いですが、お揃いですので、ただいまから第5回磐田市協働のまちづくり基本条例策定検討委員会を始めさせていただきます。本日の司会を務めます、地域デザイン推進室の太田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</li> <li>まず、冒頭事務局からご報告をさせていただきます。</li> </ul> </li> </ol>

改めまして皆さんこんにちは。地域デザイン推進室の宮本です。よろしくお願ひします。本日、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。会議に先立ちましてご報告を申し上げます。

実はこの検討委員会ですが、令和2年の8月に第1回会議を開催し、当初の予定では、今月末までの2年間ということで進めてきましたが、これまでいろいろご協力いただき改めて感謝申し上げます。

しかしながら、昨年4月に草地市長が就任して、前回第4回の委員会で市長挨拶でも申し上げましたとおり、少し時間をかけてという方針を受けまして、令和3年度は、小規模多機能自治に関わる様々な講演会や研修会等の取組みについて、委員の皆様にお知らせをし、都合のつく範囲でご参加いただきながら条例素案の検証をする1年ということでここまでに至りました。

一方、市長や副市長にも同様にこの1年、講演会や研修会、オンライン勉強会などにも参加してもらいながら、協働のまちづくり、小規模多機能自治の推進に関するこれまでの取組みや今後の取組みについて協議してまいりました。

そうした中で、令和6年4月改定を意識して、今後の取組みを進めていくという方針が出されました。昨日閉会した2月市議会の施政方針においても、条例制定の時期について市長自ら述べたところでございます。

そのようなことから、本検討委員会も、条例改正までの間、これまでの協議内容や成果を十分尊重した上で、もう2年間は継続し、協議を重ねていく考えでおりますので、その点についてこの場でご報告申し上げます。

各委員におかれましては、継続してお願いしたいと考えておりますが、それぞれの立場もありますので、令和4年度に入り委嘱等の手続を進めていく予定でおりますので、改めて確認をさせていただきます。私からは以上です。

## 2 委員長あいさつ

(委員長)

皆様こんにちは。年度末で忙しいことかと思っておりますので、お時間の都合がなかなか大変だったのではないかと思います。ご参加いただきありがとうございます。心より御礼申し上げます。

21日をもって、まん延防止等重点措置も一応明けました。何か気持ちが開放的になりつつありますが、またそうなりますと、感染者数が増えてくるというような繰り返しで、そうならないようにやっていければと思っております。

私の勤務している大学でも、来週28日から、これまでの行動指針を少し緩めるということになります。学生たちの3回目のいわゆる職域接種を5月の連休明けぐらいに始めたいということで進めています。皆さんの中にはもう3回目の接種を終えられた方も多いのではないかと思います。私もファイザーの次はモデルナ、いわゆる交差接種ということになりました。モデルナを接種するということに関しては抵抗感がありましたが、実際接種してみると、私自身は熱も出ず、楽に済みましたが、同僚たちの中には結構寝込んだりしている人た

ちもいて、非常に個人差があると思います。とはいえ、委員の皆様、これからもお体にはご留意いただきまして、ご活躍いただければと思います。

宮本室長からもお話がありまして、私もその件についてはご報告いただいたわけですが、草地市長様のご意向で、令和6年4月から施行を目指すということで、あと2年間検討の時間をいただいております。今年度は、先ほどご案内のありましたように、小規模多機能自治ということで、川北さんのご講演や、勉強会などに皆さんもご参加いただいたと思いますが、そういうことでは、磐田市の皆様はこの小規模多機能自治の在り方や仕組み、あるいは機能とか、そういうものを相当学ばれたのではないかと考えていますが、我々の条例の内容についても、そういったこれまでのいろいろな勉強をベースにしながら、もう一度そこから立ち戻り、再検討してみるという、大変いい機会をいただいていると思っております。

恐らく条例で、これほど手厚く、準備をしていくことは余りないのではないかと思います。そういう機会をいただいていると思っておりますので、あと2年、ぜひ皆様とご一緒にいいものを作っていければと思っております。

今日も年度末の最後の委員会ということになりますが、どうぞ最後までよろしく願いいたします。

### 3 議事

#### (1) これまでの経過

##### (事務局)

それでは、資料「小規模多機能自治推進事業について」をご覧ください。前回6月3日以降、各委員の皆様には、事務局から、まちづくりや地域づくりに関する講演会や研修会、勉強会等に関する案内を随時提供させていただきました。それらにもご参加いただき、お時間を割いていただいたことに改めて感謝申し上げます。

これまでの経過については、資料の8ページまでとなっております。既に、ご確認いただいていることも踏まえ、内容のポイントのみお伝えします。

まず1ページと2ページに関しては、小規模多機能自治を推進していくために、数年前から段階を経ながら、地域の皆さんとともに、幅広い分野にわたる組織、体制、事業を見直し、少しずつ形や仕組みを変えながら、人材やお金の流れの「見える化」を図りつつ、整えてまいりました。

これからも、この流れは絶やすことなく、本市が目指していく地域の在り方を1人でも多くの皆さんと共有しながら、自らのまちは自らの手でつくっていくとする意識を育くみ、機会を提供していくこと。それから市民の皆さんのニーズの把握、地域課題の解決、地域活動の情報交換、市役所の内部についても関係課との情報共有等を図っていくなど、様々な取組みを引き続き進めていくことが大切だと思っております。

これらを踏まえまして、今年度は3ページから8ページまで、各種講演会、勉強会など、新たに取り入れたもの、継続のものを含めて、令和4年度以降のことも意識しながら実施してまいりました。参加者の中には、若手事業者の皆さん、自治会連合会や地域づくり協議会の皆さん、社会福祉協議会や市民活動センター等々、各種団体から、市議会の議員等々、幅広い年代、幅広い分野の皆さんにご参加いただきました。

各種データや全国の地域実例等を用いながら、本市のこれまで、現在、これからを共に考える、大切な時間を共有できたのではないかと考えております。

このうち、4ページと5ページに掲載しています里山くらしLABOの講演会では、結果的に、市内の4つの地域づくり協議会が自ら手を挙げてくださり、令和4年度に中学生以上全住民アンケートを実施していく運びとなったことは、本当に意義深いことと考えております。

また、6ページに記載しました、川北先生の講演会では、自治会関係の皆さんもちろんですが、先ほど申し上げた磐田市議会の総務委員会の皆さんにもご参加いただきました。差し支えなければ、資料にその旨の追記等をさせていただきますようよろしくお願いします。

次の7ページにあります、地域活動情報交換会では、初めて進行役として専門のファシリテーターを活用しました。参加者からは、こういう情報交換の場は大変ありがたいというお声を頂戴し、今後の継続を希望される方も大変多く、限られた時間でしたが、有意義な時だったと思っています。

このうち、12月の子育て健全育成のテーマの時には、市内の家庭教育支援員もご参加いただき、情報共有させてもらいました。また、叶いませんでしたが、10月の防犯、交通安全のテーマの時にも、実は防犯協会の皆さんにご参加いただくことも考えていました。

今後も地域の皆さんと共に、関係関連のある団体や役割を持つ方々とも交流できる機会を積極的に作り、連携するきっかけになるよう、企画してまいりたいと思います。

どの事業におきましても、コロナの状況を踏まえながらでしたので、急な予定変更や参加者の範囲、規模を限定し、講演会等の動画配信も併せて行うなど、工夫しながらできる対応をとってまいりました。まだまだコロナの状況も予断を許しませんが、来年度に繋がっていくものと思っています。

(委員長)

皆さんも、この委員会はもちろん講演会、研修会などにご参加をいただきまして、いろいろな学びの機会があったのではないかと思います。そこでせっかくの機会ですので、感想でも結構なので、お一方ずつご参加いただいた時のことを含めて一言ずつ、何かご発言いただければと思っています。

(委員)

私から一言感想を述べさせていただきます。川北先生の講演等には何回も参加しまして、その中で特に印象に残っていることは、とにかく人口が減少していること、これは、磐田市の自治会連合会もそうですけれども、自治会そのものの存続もこれから真剣に考えなくてはいけないということが一つ。もう一つは、川北先生のお話の中で、市の財政のことがありましたが、合併してから、各地区にある施設等が今のままでずっと続けていけるかどうか、本当に真剣に全員で考えなければならないということを改めて痛感しました。その点を含みながら、地域づくり協議会を進めていきたいと思っております。

(委員)

私は川北先生や里山くらしLABOの講演会も参加させていただいたのですが、率直な意見を申し上げますと、参加されている方の属性が、例えば川北先生ですと地域づくり協議会の役員さん、若手事業者向けで開催されたこともありましたが、やはり男性が多いと。年齢層にしても、地域づくり協議会や自治会連合会になってしまうと、大先輩の皆さんが中心になっているという状況を感じました。

今回の資料の中で、協働のまちづくり基本条例の解説書を、去年、各交流センターに置き、アンケートをとられた結果が記載されていますが、円グラフを見ると、性別の89.7%は男性が占めていると。年齢に関しても35.9%が70代以上、46.2%が60代と偏りがあるのかなと思いました。

そのあたりを勘案して、やはりこれからのまちをつくっていく条例ですので、これからのまちを担っていく人たちへの情報発信や、意見収集にももう少し工夫をしていただけるとありがたいと感じました。

(委員)

私も何回か講演会やオンライン勉強会を見させていただきましたが、やはり聴講した人は、そういう立場はもちろん、もともとそういう気持ちがあって動いている方が多いのかなといったところですが、地域への理解、浸透といったところにはまだまだ時間も必要かなというところを感じます。

ただ、あまり悠長にやっている状態ではないのかなというところもありますので、その周知する手段については引き続き、プラスアルファのアクションが必要かなと思います。

年代のところは、そこも含めて、工夫が必要かなと思います。私も以前の会合でも言わせていただいておりますが、これからを担う子供たち、あるいは親世代といったところでは、PTAなど、30代や40代で地域のことも、将来のことも、いろいろと見え始めている世代にもう少し注力して参加を促していただくことが必要な状況が、改めて見えてきたと感じます。

(委員)

川北先生の講演からいろいろ感じたことですが、今もう既に70を過ぎて、これから高齢、さらに進んでいった中で、自分たちが本当に高齢者として、自分のことができなくなった時に、若い人たちがどういうふうなことをしてもらえるだろうか。今私たちが、高齢者のためにしていることが、続けていくことができるのだろうかということを、いつも不安に感じているのですが、そういうことを、数字を基に10年後はこういうふうになっていくということを示していただき、それに基づくと、何をしたらいいかということは、少しは見えてくるのではないかと感じました。

(委員)

12月の川北先生の講演会に参加させていただきました。これからの地域、磐田市という具合に考えていくと、もう他人事ではないと思っていたわけです。

参加者を見るとやはり、先ほどから話があったようなことがあり、実際にはそれぞれの家に帰った時に、家の中では誰が1番力を持っているのかと言ったら奥さんという場合が多いかもしれない。やはり女性の感覚というか、女性の意見はもっと反映できるようにならなければいけないと思いました。

もう一つ、子供たちの不登校とかひきこもりを減らす活動をさせていただいておまして、そのことを考えると将来を担うのは子供たちですから、子供たちにできるだけ小さいうちから、地域づくり、仲間づくり、そういう中で成長しながら活動できるようにするためにはどうすればいいものかと思いながら私は聞いていました。

(委員)

川北先生の講演会やオンライン研修に参加させていただきましたが、先ほどから皆さんが言われているように、川北先生は数字を用いて示されているので、非常に納得いくというか、理解が得られやすいのではないかと。そう意味では、いろいろな角度から研究され、それをもって説明しているというところは非常にいいのかなと思いました。それを聞いて納得いくとともに、聞いている人たちの反応が生き生きしていると思いました。

今度4つの地区が手を挙げてアンケートをやるということで、残念ながら自分の地区はそこまでいきませんでした。やれない地区は、逆に何でやれないのかということを考えていきたいと思います。

そういうことを考えながら、今後この条例の中で、役員の成り手がいないとか、ボランティアの募集をしてもなかなか集まらないとか、いろいろなことがあります。その背景にあるものが何かを、条例は条例として、その後をしっかりとかきまえて進めていかないといけないと感じました。

(委員)

市民活動センターの仕事も踏まえて、参加させていただきました。川北先生の講演も何回か聞いていますが、やはりその時代時代のテーマに沿ったお話をされているところが、すごくいいなというところがありまして、その時の課題に対して、ものすごく分析されていて、それから一緒になって考えて地域の良さをうまく引き出しているというか、やる気を引き出している点が、すばらしいと思いました。

同時に仕事の兼ね合いの中でいくと、私が仕事をさせてもらっている市民活動センターではどう考えていったらいいだろうか、そのようなヒントが、あの中にはものすごくたくさん含まれていたような気がしますので、先生のテキストは揃えさせてもらいました。

(委員)

川北先生が、数値で説明していただけるものですから分かりやすかったと思います。人口減少、私の地区は3,600人ぐらいですが、30年後には2,400人になるということから、自治会運営も、合区というか、そういう時が来るだろうと。また、高齢化ということで、自治会、地域づくり協議会の役員、担い手をどのように発掘して、協力していくことが、大きな課題と感じました。

(委員)

やはり地域づくり協議会の大小で、極端な差がありまして、そこから人材不足、あるいは担い手がなかなか現れないところが根本的な問題じゃないかと思っています。

もう少し具体的に言うと、女性とか、あるいは若い人たちが、仕事を持っている関係かもしれませんが、なかなか活動に参加しにくいということになると思います。これはある面ではやむを得ない部分は確かにあると思います。

そういうことから、現在23の協議会がありますけど、20,000人からあるいは5,000人以下の人口で協議会が運営されているわけです。もう必然的に担い手が不足します。やはりこういう問題、基本的な問題から解決していき、先生のいろいろなお話も、実際の活動の中に生かしていくことを考えております。

(委員)

私も2つほど参加させてもらいました。基本的に思ったことは、目から鱗で、頭の中では分かっていたつもりですが、実際に行動するというのは非常に難しく、お話を聞くことと現実の場に戻った時のギャップがかなり大きいと。ですから、思っていることもなかなかできないというのは、やはり現実の問題だと思っています。

私はNPOをやっているのですが、子供たちにずっと言ってきたのは、1人でできなければどうするのだと。あるいは、お金がなくてもできる方法がある

のではないか。そんなことを考え、一緒に考えながらやってきました。

いろいろ実現することもできたのですが、先ほど申し上げたとおり、目から鱗ということで、本当に改めて考えさせられたと思っています。

先ほど男女の偏りとか、年齢的なものがあるということもありましたけども、私はもう一つ、参加者の偏りとして思ったことが、役員でないこのような場の研修に参加ができない。本当にそれがいいのかどうか、役を持っていけば、いろいろなところに顔を出せるのですが、役につかないと全く疎遠になってしまうというのが現実だと思います。

そこを、4年度の中でグループワークとかワークショップとかありますが、これからどのようにして実施していくのか、女性の参加にしても外国人の参加にしても、肩書のない人をどのように参加させるかということをもっと真剣に考えないと、このまちづくり条例も難しいという気がします。

(委員長)

川北さんがどのような話をされるのか想定はついておりましたので、皆さんのご感想を聞いて、そういうことだったと思ったわけですが、先ほどからお話がありましたように、参加者の偏りというのは、やはり致し方ないところがあると思われます。

各委員の分析になりましたけれども、これは仕方がない。役員の方にはそのチャンスが開かれているということになるわけですが、一方で、男性でしかも、ご年配の方が多いというのは、地縁型組織の1番大きな課題ということなかなと思っていて、先ほど来のお話で、要は担い手をどのようにリクルートしていくことができるのか、それが極めて重要な課題だろうと思います。

ですから、これから我々協働のまちづくり基本条例の議論をするわけですが、そういうところにも若い人たちを招いたり、若い人たちの感性で発言をしていただいたりとか、その条例の作り込みの中に若い人たちを巻き込むような、そういうルートが出てこない、なかなか自分のこととして受け止めにくいのだろうと思います。

ですから、あと2年間の中で、そんな機会もできれば設けていただくということは、ぜひやっていけばいいと思いますし、また、委員の皆様の中で若い方々はアプローチしやすいのではないかと思いますし、また多言語担当の課の皆様の中にも若い方がいらっしゃる、そういうところで一つ何かこうチームをつくって、若い人たちがうまく対話していただくような、そういうことができたらいいいと思います。

実は10ページのところにシンポジウムのお話が出ていますが、その中の土肥さんのことは、大学生時代から知っていますが、意思決定の中に若い人たちの意見をどのように入れていくのかということに相当問題意識の強い人でした。

そういうことで今も、若者のまち事務局の局長をされているようですが、若い人たち、高校生とかあるいは20代の前半ぐらいの方々に引き合わせてあげ



ると、相当面白い化学反応が起きるのではないかと思います。むしろ彼がたきつけてくれそうな気がします。そういう何かルートができてくると、若い人たちとご年配の方々がうまく繋がるようなきっかけもできます。

一方で、その次の世代、いわゆる30代40代の世代の方これが一番難しいと思います。意外と彼らは地域づくりに関して、地元の消防団などには、結構義務的な形で出ていくというケースはありますが、そこで疲弊をしてしまうというケースがありますね。でもそうではなく、ちょっと楽しい活動にうまく転嫁できていけば、うまくいくのではないかと思います。

実は私、六、七年前に、アメリカの町の消防署を見たことがあります、日本でいう消防団についてはアメリカには制度としてないわけです。ですから消防士という形で、職員を持つわけですが、結局地域の方々が、その消防の活動に理解を示していただくためには、遊び心が無ければいけないということです。その消防活動の中でも、そういう遊び心を持ちながら消火活動のワークショップをやっているわけです。

ですから例えば日本の、これ全く批判しているわけではありませんが、消防団になると、指揮命令系統がきちっとして、若い人たちでそこへ入っていくと何か行かなきゃいけない、悲壮感のようなものを感じてしまうのです。

しかし、そうではなくて、自分たちの活動が実は地域の人たちの命を助ける、そして更には、そこで培われた人間関係が実は大きな財産になっていくということを理解してくれると。非常にいい活動に展開していく可能性があります。

ですから、従来型のものには従来型として尊重していかなければいけないわけですが、そこに新しい感性を埋め込んでいかないと、なかなか新しいものに順応できていかないのではないかと思います。

そんな機会をぜひ皆さんと意見交換しながら、委員会の中でうまくこう提案してそういうきっかけをつくっていただければいいとは感じています。

事務局はもちろん、市長さんもその辺のところはご理解があると思います。ぜひ進めていただければと思います。いろいろな意味で、様々な視点からご感想をいただきましてありがとうございます。今後の進め方の参考とさせていただきます。今後進めたいと思います。

## (2) 前回の委員会における意見等の対応及びアンケートの状況 (事務局)

お手元の資料をご覧ください。前回の委員会でも皆様からいろいろなご意見、ご提案いただきました。会議録も公表していますが、改めて整理しましたのでご確認願います。

このうち、前回、委員から、市議会の関係はこの条例に盛り込むことについてどうかご意見をいただきました。参考資料として、磐田市の議会基本条例を添付しています。もう既に制定され数年経過していますが、非常に細部にわたるまで規定されています。

このことを踏まえると、議会基本条例の第5条に市民と議会との関係というところがあります。この内容が、私たちが進めています条例に関わってくるころかと思えます。両条例の整合性等や位置づけ等を考えると、簡単なことではないと思いますが、今後、事務局も議会等と相談しながら、この検討委員会の中でも引き続き協議していきたいと思っています。

それから、円グラフで示した資料では、先ほど委員からもお話がありましたが、昨年7月下旬位に市民啓発の一つとして、市内の交流センターや市民活動センターへ、解説書の案とチラシを置いてもらいながら、自治会連合会の役員の皆さんや自治会長を中心にアンケートを実施したものです。

年齢構成等においてご指摘いただいたことは、私たちも重々承知の上ですが、何より40近いご意見、ご回答があったことは、私たちも実は本当にびっくりしたというか有難かったです。

全体を通しますと、解説書の案の分かりやすさ、読みやすさという点では、比較的好意的に評価をいただいている方が多かったというような印象を持ちましたが、やはりいろいろな考え方や思いが幅広く、同時にこの解説書の案を通じて、地域のことや人づくり、まちづくりについて、真剣に向き合ってくださいという方が多いということがひしひしと伝わりましたし、そのことが非常に有難く感じています。

今後の条例づくり、解説書の見やすさと、分かりやすさも含めて、次に繋がることになると思いますし、どれも参考になる意見であると感じています。

(委員長)

ありがとうございました。この後の議事でのご説明を受けまして、全体でこの後意見交換をさせていただければと思っておりますので、ひとまず、次へ進めさせていただきたいと思えます。それでは議事の3番目ですが、今後の予定について、よろしく願いいたします。

(3) 今後の予定

(事務局)

それでは今後の予定についてご説明させていただきます。資料「小規模多機能自治推進事業について」の9ページ以降が令和4年度主な事業の予定となりますので、そちらをご覧ください。

先ほど委員長から消防団の話が出ましたが、私も2年前に退団して25年間、消防団に携わってきました。ちょうどこの時期は退団者が出ますので、私も一緒に活動した退団者と先日会うことがあり、いろいろ話したところ、若者の絶対数が減っているのが大変だと。もうずっと前から叫ばれていますが、団の運営が今非常に難しく、私が入団した時は、消防団の構成は自営業者と農協、行政職員がほとんどでしたので、大概昼間や土日の火災も全員出たのですが、今はもう9割以上がサラリーマンの方で、正直昼間の火災で車両が出せな

いということが大きな問題になっています。

それから、自営、農協と行政職員ですので、基本休みが土日、カレンダーと一緒に、何かやる時はカレンダーの休みどおりに実施すれば、皆訓練も集まったし、イベントもそこでやれたのですが、今は勤務も3交代、夜勤の方もいれば、土日休みではなく日月休みの方もいて、訓練をやろうとしても、休みがバラバラなので、なかなか一堂に集まることができなくなっている。

本当に団員確保とはまた別の課題が出ていることで、団の幹部も今までの団のやり方では通用しない時代だから、運営自体を見直していかなければいけないという話も出ています。

個人的には、今の団の活動運営が、将来的には自治会の活動に繋がっていくと思っていますので、いずれそう遠くない時期に、地域活動もそういう時期、状況に追い込まれるのではないかと感じています。

またぜひ皆さんからもご意見をいただきながら、「協働のまちづくり」をもう一度再認識していただければと思いますのでよろしくお願いします。

本当にいろいろなご意見ありがとうございました。我々も、令和3年度1年間活動して、まさしく皆さんと同じような課題があるということは重々承知し、認識をしています。そのあたりも踏まえながら、来年度の新たな取組みを仕掛けていきたいと思っています。

来年度は、大きなものを3つ考えております。1つ目は、先ほど来話が出ていますが、9ページにあります「中学生以上全住民アンケート」は、長野、豊浜、豊岡東、豊田東の4地域が手を挙げていただき、実施していく形となりました。我々としては2つか3つぐらいあればいいと思っていましたが、4つ手を挙げていただき本当に嬉しい限りだと思っています。この地域以外にも、もう少し役員や自治会の賛同を得るまでに時間が欲しいので少し待つてほしいとか、あと、もう少し組織体制を整えてから取り組みたいといった声も多かったですので、実施に向けて前向きに捉えている地域が多いという点では、期待が大きいところです。

既に里山くらしLABOが地域に入り込み、質問項目の作成を始めている地域もあります。実行委員会を立ち上げて取り組もうとしている地域や、アンケートの入力は地域が担っていきませんが、中学生の力も借りて、一緒に取り組みながら、地域自ら考えている地域もあり、そのように取り組もうとしている姿に我々も感銘を受けております。

アンケートのスケジュールについてはお手元の資料に記載してある内容で進めていく予定ですので、報告会などは皆さんにもお知らせし、もしお時間あるようでしたら見ていただけたらありがたいと思います。

長野と豊岡東が先行して行い、豊浜と豊田東がその後スタートするような流れで進む予定です。スケジュールでは2月頃に報告会を開催としてありますが、里山くらしLABOからの報告では、先行した地域は年内の12月頃に報告会を開催、後は年明け1月頃ぐらいに開催できればとのこと。

アンケートを行うことが本当の目的ではなく、アンケートを集計した結果を報告し、その内容に基づいて地域活動を進めていくことが最も重要であることは、里山くらしLABOも特に強調していて、各地域のヒアリングでも特に確認をしていました。我々もそのとおりだと感じていますので、報告会以降の地域の取組みが楽しみと同時に、支援として何ができるのかを検討していく必要性があると感じています。

令和5年度以降も、新たに取り組もうとする地域のための講演会等は、昨年度に引き続き9月頃開催をしていく予定でいますので、皆さんにも案内を出したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

続いて2つ目が10ページになります。小規模多機能自治のシンポジウムを開催する予定でいます。こちらは既に日が決まっています、資料に記載のとおり、11月20日の日曜日に新しくオープンする市民文化会館で開催する予定です。1,500人収容のホールですので、先ほど話がありました性別問わず、多くの皆さんに声かけをして、本市が目指すこれからの地域やまちづくりの在り方を考え、1人でも多くの市民と共有し合い学び合うことで、自らのまちは自らの手でつくるという意識を培う機会の場合としたいと考えています。

内容につきましては記載のとおり、I I H O Eの川北さんの基調講演、まちづくりや地域づくりなどにおいて県内や全国で活躍され、また本市にかかわりのある方をお招きしてパネルディスカッションを行う予定でいます。日詰委員長にも、パネリストとしてご協力いただきたいので、またよろしくお願いいたしますと思っております。

川北さんをはじめ、資料に記載されている方には既に内諾を得ております。今後、詳細な打合せをしていく予定ですが、このシンポジウムの中では先ほど説明した「中学生以上全住民アンケート」の事例発表も、川北さんからの提案でぜひやったほうがいいということで検討していて、里山くらしLABOにも協力を依頼しています。チラシも作成しますので、でき次第、皆様にもご案内させていただきたいと思っておりますし、また皆様から関係部署に配布したいというようなことがありましたら、ご相談いただきたいと思います。

それから3つ目が、11ページになりますが、市民ワークショップの開催を検討しています。先ほど、太田からも説明がありましたアンケートでいただいたご意見や先ほど皆さんの今年度1年の振り返りの中でいただいた感想にもありましたように、今のまま条例づくりを進めていくことで良いのかどうか、事務局サイドとしても不安な部分があり、今回のアンケート結果を見ても理解度もそれぞれでしたし、意見もそれぞれでしたので、もう一度協働や人づくりなど、幅広い階層の市民と考え学び合う場を設けて、条例改正の必要性の理解を市民とともに深めていきたいと考えています。

アンケート結果もそうですが、様々な団体の方と私もお話しする中で、そもそも本来の協働の意味をあまり理解されていないのでは、今活動できているから自分のところは何も問題はないという方もいて、社会や生活環境の変化を正

確に捉えない中で、10年先20年先を見据えたビジョンを示していない団体も、結構あるという印象を持っています。

ワークショップの実施方法や形式等、具体的なことは未定ですが、公募によるメンバーを中心に複数回実施したいと思っています。この中では先ほど皆様のご意見を踏まえ、様々な方々のご意見をもらいながら進めていきたいと思っていますので、ご提案をお願いしたいと思います。

それ以降の事業は、本年度に引き続き実施するものとなります。市民ファシリテーターの養成は、これまで座学のみでしたが、ロールプレイング形式の実践的な講座も組み合わせるなどして育成を図るなど、市民活動センターと連携しながら進めていきたいと考えています。また小規模多機能自治関係の講演会や研修会、勉強会なども引き続き実施していく予定です。里山くらしLABOの力をお借り、交流センター職員向けの地域支援者としての心構え的な研修会も実施していきたいと思っています。

それから、先ほど来話が出ています議会にも動きがあり、昨年12月の川北先生の講演会には、市議会の総務委員会のメンバーが全員参加し聴いていただき、昨日閉会した2月市議会でも質問が出たり、次年度の進め方についても相談がきていますので、議会とも調整しながら進めていきたいと考えています。その中で、本条例の議会の位置づけ等についても協議しながら進めていこうと考えています。

また地域活動情報交換会も今年度に引き続き開催します。既に福祉課からも打診があり、地域福祉計画の更新に合わせ、地域活動情報交換会を活用していきたいという話がありますので、テーマとしては福祉分野、合わせて本年度コロナの関係でできなかった防災分野については実施していきたいと思っています。今年度、交通安全と防犯、青少年健全育成をテーマとして実施した中で気づいたことは、先ほど男女比の話が出ましたけど、青少年健全育成の情報交換会は3分の2以上が女性の方でした。やはり実際の現場で、地域活動をされている方の中には、女性や若い世代の方は結構おられますので、今後いろいろな事業を展開していく時は、そこで関わった方々にも案内を出しながら、参加を促すような取組みを進めていきたいと思っていますので、よろしく願います。

以上が令和4年度に予定している事業の説明となります。今、説明した内容を年間スケジュールとして表にまとめましたので、参考までにご覧ください。

最後に「磐田ここからラボ」の創設について説明します。3つのポイント、安心の土づくり未来への種まき予算という資料をご覧ください。本委員会を含め、小規模多機能自治が主に関わるのは、2番目の「学びの機会の創出」というところになります。これは令和4年度予算の3つのポイントのうちの1つということで理解していただきたいと思っています。目的は2枚目にありますように、「校舎のない学び舎」ということで、幅広い主体が垣根を超えて繋がり、ともに新たな価値をつくり出すことを目指すものということで、小規模多機能

自治推進事業については既にこの取組みを先取りするような形で進めていますので、今さら説明する必要性はないのかもしれませんが、令和4年度から体系図にありますように、全庁的にいろいろな部署で進めていくということで、ご理解いただければと思います。

小規模多機能自治の推進に関して言えば、令和2年度から本年度にかけて、研修会や講演会、勉強会等様々な学びの機会を創出して、種まきをやってきました。令和4年度から令和5年度にかけては育成期ということになるかと思いますが、我々でいうと中学生以上全住民アンケートの実施やシンポジウム、ワークショップの開催、その先のパブリックコメントの実施などを経て、最後令和6年度以降になりますが、条例の制定やアンケート結果に基づく地域活動や計画の策定などに結びつける形で進めていきたいと考えております。

市として、このような取組みを全庁的に広げていきたいということを認識してもらえればいいと思いますので、地域の中で、もしかしたらこの「磐田ここからラボ」というワードが出てくるかもしれませんので、ご承知おき願います。

(委員長)

議事の1つ目はこれまでの経過ということで、皆様からご感想を発言いただきました。2つ目と3つ目の前回の委員会における意見等の対応及びアンケートの状況と、今説明のありました今後の予定について、ご説明いただきましたが、この2つのところで、ご意見、ご質問をいただきたいと思います。

どのような観点からでも結構でございますので、いかがでしょうか。

(委員)

説明ありがとうございました。「磐田ここからラボ」のところ、少し私自身気になったところがありますが、3つのポイントのところの取組み中、子供の自由な学びを応援しますというところがありますが、非常にいいことだと思うのですが、説明中、これはお願いなのですが、子供さんに示す時には、この例示は無しにしていきたい。要するに、自由な学びを応援するのに、演劇があります、スポーツがあります、ふれあいやキャリア教育がありますと記載してしまうと、大人も含め、この中から選ばなければならないという発想となり、本当に子供たちの自由の中で出てきたものを学ばせるという、そういう軸があったほうがいいのかと思います。これはお願いですけども、できれば注意してやっていただけるとありがたいと思います。以上です。

(事務局)

ありがとうございました。教育委員会や自治市民部のスポーツ振興課にも関わってくる内容ですが、市議会への予算説明資料ということでこういう形にしてあると思います。実際の運営の中では違った形でやっていくと思いますので、それも含めて所管課の方には伝えておきます。

(委員)

資料 10 ページ、11 月のシンポジウムの件ですが、対象者として各種団体の名前が挙がっています。冒頭から話があったように、年代だとか男女比のところ、まだ 11 月であればこの辺りを改善できるかなと思いますが、この団体あるいは団体以外のところで具体的に年代や男女比について、どのようなプラスアルファを検討していただけるのでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。対象者もまだ決定ではなく、1 案として掲載しているだけであり、委員からも言われている P T A の方々にも、ぜひ参加していただきたく、案内は流したいと思っていますし、皆さんの方から、こういう団体があるので通知を出してほしいということがあれば、会場のキャパシティも相応にありますので、できる限り対応していきたいと思っています。

(委員長)

今のところで、パネリスト予定者の中に、土肥さんがいらっしゃいますが、彼の紹介のところで「高校生まちづくり研究所」とありますが、これはどのような内容でしょうか。

(事務局)

高校生が集まり政策提言をしてもらっています。市内に 5 校ありますので、各校から高校生が集まり、プレゼンまで実施する企画を進めていますが、その監修を担っているのが土肥さんです。ですからこちらでも今後、政策担当課とも連携しながら、中高生のことについても検討していく必要があるのですが、できればこのシンポジウムにも、若い世代に参加してもらえるとありがたいということも含めて考えています。

(委員)

私の本当に個人的なお願いなのですが、先ほどの全住民アンケートを実施されるということで、4 地域の中のどこでもいいので私も参加したいです。現場を見てみたいです。多分今後他の地域でもアンケートをやられると思いますが、せっかく検討委員にさせていただいて、現場を見た上で意見を発信させていただきたいですし、それを見ることによって感じることもいっぱいあると思うので、できればご検討ください。

また先ほどの話で、若者や女性をもっと参加できるようにというところで、私自身もこれまで活動してきている中で感じていることですが、僕もまだ若いという枠組みに入れていただけなのであれば、若い人たちの中での意見になるのですが、まちの中で何か自分が発信して、それを大人だったり先輩方が耳

を傾けてくれたりだとか、取り入れてくれてその意見が実現した時は、感動だったり達成感だったり、自分がまちの役に立っているという感覚は、先ほどの担い手の話にも繋がってくるころだと思います。その辺り、今回の条例の浸透というところもそうですが、今後のまちづくりの中で、市の仕組みをつくらせていただければと思います。

そういったところからシビックプライドというか、まちに対する愛着が生まれてくると思いますので、先がまだまだ長いとは思いますが、基礎のところ、このタイミングで、皆さん共通認識として持てるような条例になればいいのかなと思っています。

(事務局)

ありがとうございます。ぜひそれもまた今後、全住民アンケートを実施する地域への相談を含めて検討させてください。正直、我々も初めての取組みなので、我々も一緒に参加してみたいというところがありますので、本当にありがたい意見です。

成功した事例を載せていけるような内容で、条例の考え方ですが、まさしく我々もそのとおりで、今回のアンケートの中でも、なかなか条文だけだと分かりにくいので、解説をどれだけ分かりやすくするかということが、この条例を浸透させる大きな目的の1つかなと思っています。

アンケートのご意見の中でなるべく成功した事例を多く載せてほしい、実現しないような内容を掲載するのではなく、成功した事例を挙げてもらえると、より身近にこの条例も感じられるのではないかというような意見もありましたので、我々も地域に出向いて、いろいろな団体と話しながら、情報を集めたいと思います。また委員からも情報があれば、我々に提供していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(委員)

スケジュールマップがあるわけですが、条例は2年間かけて、じっくり検討しようということだと思いますが、I I HOEや里山くらしLABOの研修会等もあり、これらの情報が入ってきたので、条例に追加とか補完するようなものがあればそれを抽出して、策定検討委員会で検討するというふうに捉えていいわけですか。

(事務局)

はい。おっしゃるとおりで、これから全住民アンケートも具体的に進んでいきますし、来年度行う市民ワークショップの中でも様々な意見が出てくると思いますので、今素案という形ではつくってありますが、そこにプラスアルファは何かしらするべきだと思いますし、していかなければいけないと思っていますので、委員の考え方で進めていきたいと思っています。



(委員)

スケジュールから言いますと、今年度末が1番ピークかなというところで、年度末頃が1番、策定委員会も密に協議するという感じ、イメージでよろしいでしょうか。

(事務局)

スムーズにいけばそうだと思いますが、令和5年度の上半期までは時間がありますので、令和5年度の早い時期にまとめるような形にし、下半期で議会上程というスケジュールも立てられますので、もう少し来年度の取組みを見ながら詳細なスケジュールを決めていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(委員)

また「磐田ここからラボ」の件ですが、令和4年度に種まき期のプランでやりますが、きっかけづくりというか主体というか、そういったものは、地域づくり応援課から支援、例えば小・中学校、協議会の方へ来るとか、学校へいくとか、どういう関わりでこういうものを進めていくのか、教えていただけますか。

(委員)

基本、地域づくり協議会に絡む内容であれば、地域づくり応援課を通してまたは所管からも話があるかもしれませんが、我々も一緒に把握した中で進めていきたいと思っています。それ以外の部分についてはそれぞれ所管課が予算を持っていますので、直接進めていくような形になります。

ちなみに、先ほど説明はしませんでしたでしたが、地域づくり応援課で現在所管しているものが、1の(2)のとおり、NPOや市民活動団体に対し、講演会等に要する経費補助については市民活動センターとタイアップしながら進めていく予定でいます。地域づくり応援課として所管している予算はそれのみです。あと他の所管から地域へとなった時には必ず応援課を通すように体制はとってあります。

(委員)

3点お願いしたいのですが、まずワークショップを開催するという予定がありますが、このワークショップをいろいろな年代層、女性、各種団体とか、思い切った形でのワークショップの開催方法、これを考えていただきたいと思っています。

2点目は宮本室長からも話がありましたけども、福祉部門とは既に調整をしたことがあるというお話がありましたが、このまちづくり条例は、行政の縦割りを解消する重要な要素が含まれているのではないかと思います。そういう

意味で、単なる地域活動の将来的な展望、あるいは考え方だけではなく、行政にも、思い切って縦割りを解消するような仕組みを考えていただきたいと思えます。

3点目ですが、消防団、若者という話が委員長からもありましたが、この前、県の自治会連合会の会議があり、その時は、伊豆の方が事例発表しましたが、委員長がおっしゃったとおり、消防団員を増やし、活動を活発にするには遊び心が必要だということをおっしゃいました。

同じことを言われているのですが、そこではどんなことをしたかということ結局地域で行う行事に子供たちを集めて、自由な発想のもとにやってもらった、それがきっかけで地元の若者たちと非常にコミュニケーションができて、消防団の将来にも繋がったという話を今思い出しましたもので、そういう面でもこの遊び心をもって消防団員を集める、そういう考え方は必要だということを感じました。

(事務局)

ワークショップの様々な年代層というのはもちろんそのとおりで、我々もどういう形でできるかまだ具体的に申し上げられませんが、その方向でやっていきたいと思っています。またご提案等あればお願いします。

福祉部門、行政の縦割りの関係ですが、本年度小規模多機能自治プロジェクト会議を、福祉課長、高齢者支援課長、市社協の事務局長と私の4人で、この1年いろいろと現状等の話し合いをしてきました。

それぞれの課の考えのすり合わせは本年度できたかと思っていますし、実はこの報告書には掲載していませんが、市社協の生活支援コーディネーターの職員を集めた地域支援者としての心構えをテーマとした研修会を、里山くらしLABOをお願いして実施しました。そこには、高齢者支援課、福祉課、我々地域デザイン推進室、市社協の職員も一緒に参加して、まずはその地域に入っていく時にどういう心構えで入っていったらいいかという内容で、大分その辺のレベル差が一定になってきたかと思えます。ただ、先ほど言ったように、まだ交流センター職員もそこまでにはなっていないので、今後交流センター職員にも、同じ研修を受けさせて、福祉と地域づくりとの整合性等を合わせていきたいと考えていますので、その都度報告させていただきます。

それから消防団の関係で、遊び心は当然そのとおりなので磐田市の消防団も夜警の時には子供たちを呼んで一緒に消防車両に乗せたり、方面隊によってはクリスマスの際に、消防団の車両でクリスマスプレゼントを配ったりという活動にも取り組んでいます。なかなか今難しいのが、厳しい現場で活動しなければいけないので、自分が団員だった頃は相当上の先輩から厳しい指導を受けました。それは、本当に厳しい現場で活動しなければいけないということもあり、そういう訓練を受けなければならぬのですが、今の子どもたちにそれをやってしまうと、すぐ辞めてしまう場合が多いので、その辺も遊び心を持ちなが

ら安全管理をしっかりとやるという、その矛盾したところをしっかりとやらなければいけないと、苦しい胸の内を団幹部からも聞いています。

ただ、誰でもいいのではなく、その先には、本当に災害現場に出て人の命を救わなければいけないという使命があり、その整合性をとるのが非常に難しいというのは聞いていますので、また団のほうにも伝えておきます。

(委員)

先ほど、アンケートへ参加させてもらいたいという話がありましたけど、この4年度の事業、このアンケートから始まってシンポジウムそれからワークショップ、ファシリテーター、みんな関連があるものばかりです。

この11月のシンポジウムのパネリストの中に、高校生まちづくり研究所というものもある。せつくなので、できるかできないはともかく、横へ置いておいて、例えば高校生にアンケートをドキュメンタリー風にして、ビデオで記録に残していくようなことをやったらどうでしょう。

例えば、私のNPOで、地域に残したいものは何ってということで、子供たちに呼びかけたところ、ひとつの学校がやりました。織物の産地でしたので、北向けに窓を設けて、工場の屋根をつくっていくところを残したいということで、子供たちが脚本から全部つくって撮影に行って、お話を聞いて、もうちょっとでできるというときに、残念ながらいろいろ要因があって、駄目になってしまいましたけれども、今の子供たちだったら、例えばこう周りがしっかりしていれば、多分、ドキュメンタリーのようにしてつくれるのではないかなと。

それを、例えばシンポジウムのために編集しなおして、このようにしてアンケート調査をやりましたということも含めて紹介しながら、例えばこの高校生まちづくり研究所の方が出席したり、あるいは、先ほどのお話の中では高校生も参加したらどうかというような話もあったと思いますが、そのようにやっていくと非常に広がりが出てくるし、若い子供たちも、取っ掛かりやすいのかなという気がしますので、時間的になかなか難しいと思いますが、考えてみても無駄ではないと思いますので、もしも参考になるようだったらご提案させていただきます。

(事務局)

ありがとうございます。この住民アンケートは、この先も継続してやっていくつもりでいますので、何かしらの記録は残したいという思いはありますので、今言われたような、高校生を使うこともひとつの案かなと思っています。

ただし、今年度に関しては、正直、我々はまだ見えない部分が非常に多くて、その辺も里山くらしLABOとも確認しながら進めていかななくてはならない部分もありますので、相談して進めてみたいと思っています。ご提案ありがとうございます。

(委員)

一言だけ。非常に慎重な発言がありましたが、失敗しながらやっていくってことも非常に大事なことだと思います。失敗して、直して、修正をかけて、次のステップに入っていくという、例えばトヨタの改善もそうだと思います。

その繰り返しだと思いますので、初めから大事に大事にというよりも、もうとにかくやってみて、失敗したら仕方がない。どこが悪かったか考えさせるところが勉強だと思いますので、そこを重点にしてやってみたらどうかと思います。これは私の意見ですが、参考にしていただければありがたいと思います。以上です。

(委員)

皆様のご意見をずっと聞きながら、いろいろ考えたことがあります。

この会は、2年間で終わるはずだったが、2年担保されたわけですね。そうすると、今までは机上の議論が多かったけれども、委員としてはどうだろうかと、ずっと考えながら聞いていました。

学びの創出のここからラボでもそうですけど、ここがやればいいじゃない、あそこがやればいいじゃない、他人事のような提案ではなく、市民として自分はどうやって主体的に動いていくのかということを考えながらこの説明と皆さんのご意見を聞いていたわけです。

私自分の仕事もそうですけれども、いかに主体的に市民が動くにはどうしたらいいかということは、常時考えていることで、団体が主体的に動いていくための支援はどうすればいいかということ、仕事の中でずっと頭の中に置いているものですから、同じことをこの中で考えていくとなると、委員は本当に座学だけでいいか、協議するだけでいいだろうかということを考えながら聞いていたときに、先ほど現場と一緒に関わる部分が欲しいという、話が出てきたわけです。

それは、1例だと思いますけれども、そのために私たちは、この2年間の猶予をいただいた分だけ、さらにこの条例をよくしていくための学びを、自分に振り返って考えたほうがいいと思います。

ですから、それぞれの活動ベースがあったり考え方はあったりしますが、先ほどおっしゃったように、私も仕事の中で失敗という言葉はないと常に言っています。

どうしても、良いか悪いかで判断することが多いですが、世の中には、そうではなくて、これをやったけど次に改善して、こういう方向に向かう。たとえ一歩進んで二歩ぐらい下がるかもしれないけど、その中からの学びが大切だということは、自分の仕事先でも毎日言っているようなところがあるわけです。

そうすると私たちは、自分たちが委員として主体的になるためにはどうしたらいいかと考えていたわけです。そのためには、さてどうしたらいいのか、

今のところ私は全然思いもつかないですけれども、ご提案とかアドバイスとかいろいろあった中で、例えばワークショップにしても、アイデアがあるかもしれないという気はしていました。

ですから、そういうことも含めて、もう少し丁寧に、皆さんのご意見を聞きながら、事例も拾いながら、学びながら、行政だけにお任せするのではなくて、自分たちも一部参加する気持ちでいたほうが、多分2年後は関わってきた実感というものが、さらに大きく膨らむのではないかと。制定後に私たちが、さて次の段階としてどうやって自分の地域、あるいは磐田市に関わっていくことができるだろうかと考えることに繋がるのではないかと感じました。

感想みたいな意見みたいなところで申し訳ないですけれども、自分事として考えたほうがいいのではないかと思ったりしました。ありがとうございます。

#### (事務局)

この市民ワークショップには、できれば、委員の皆様も一緒に参加していただいて、市民と対話する中で、ご意見も聞いてもらえるとありがたい。

先ほど、アンケートに参加してくださると、本当にありがたいお言葉をいただいたと思っていますし、それに準じて、できれば市民ワークショップにも皆さん一緒に参加していただいて、当然都合のつく範囲内になるとは思いますが、委員も市民の声を聞くということも、重要ではないかと思っていますので、その辺の進め方については、委員長と相談しながら、来年度どのような形でやっていったらいいかを考えていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

#### (委員長)

来年度事業のところでは、委員の皆様が参加したり関わったりしていただけるものが、メニューとして用意されていると思います。

それぞれお時間の都合もあつたりしますので、全てというわけにはいかないと思いますが、これだけメニューが用意されていれば、その中にご参加いただけるものも結構あるのではないかと思いますので、ぜひ計画的にご参加いただけたらありがたいと思っております。

それでは、最後になりますけれども、その他情報交換等に移りたいと思います。もしもこれまでの意見交換の中で言いそびれたり漏らしたりしていること、あるいは今度こういう情報があるけれども、皆さんいかがでしょうかというものがあるようでしたらお出しいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

自治会やPTAに関わらせていただく中で、最近思ったことは、このコロナによって祭りがどこの地域も2年間中止されているのではないかと思いますけれども、実際に祭りをとり仕切っている実行部隊の人は、恐らく40代ぐらいの人、30後半から40代ぐらい人が多いのではないかと思います。

その人たちは祭りをやりたいというエネルギーが溜まっており、その代表が祭りをやっていないから、来年も役員を留年させてくれと言っている町内もあります。

その人達というのは、地域づくり協議会というエリアよりも、自治会というサイズの中で動きたいというエネルギーが溜まっている人たちなので、例えば講演会とか、先ほどのワークショップとか、ピンポイントで祭りの中老をやっている人たちを指名するぐらいの勢いで、掘り起こしをしていただきたいと思います。

プラスアルファで申し訳ないですけれども、多分、ここ2、3年で大分エネルギーが溜まっている人が多いと思いますので、その辺の掘り起こしをお願いしたいと思います。

(事務局)

私もその年代であり、重々承知していますので、掘り起こしをしながら、ぜひそういう若い方の意見も取り入れるような取組をしていきたいと思っています。

(委員)

今のご意見に補足をさせていただくと、この地域の祭りというのは、昭和30年代40年代の、これから人口が増えていく時代にシステムができ上がった祭りが非常に多いと思います。

人が多くてお金もあった時代の仕組みが、平成令和になってもずっと続いてきて、ここに来て祭りの持続性ということが難しくなってきたと。さらにここに来てまたコロナもあってということが現実のところだと思います。

そういう意味では祭りの運用形態の見直しのタイミングに来ていると思います。お祭りでお酒を飲みたい人も、当然いるとは思いますが、お祭りに参加されない方からは、祭りに参加し、中心的に参加している人たちはお酒を飲みたいだけみたいな見方をされてしまう。そこを発想の転換で、例えば地域づくりのほうに祭りの実行委員が主体的に関わったりすると、彼らもまちのことに對してやってくれている、祭りのときにお酒飲んで楽しむことも、そのまちの雰囲気になってくると思います。

そういう意味でも、まちづくりに参加したいけれども、まだ表立って活動が出来ていない人たちはいると思いますので、その辺りを今回のワークショップで一度検討してみることもありかと思いました。

(事務局)

全てを把握しているわけではないですけど、協議会の中には、例えば夏のサマーフェスティバルのときに、祭りの実行委員が協力して取り組んでいるようなところもありますので、言うとおりの若い力は非常に重要だと思いますし、先ほどからずっと言っている若い人の意見、このワークショップにどうやって取り込むか、また考えていきたいと思いますので、よろしく願います。

(委員)

私の年齢からすると、もう祭り男からは随分離れてしまいましたが、私の感想を言うと、お祭りをまちづくりのために盛り上げてやろうというご意見はとてもうれしいです。

まちづくりをするときに、いわゆる若い人たちのエネルギーは、とても大事なように思います。年をとった人たちだけでは、理屈は言うけど、足腰が動かないですから、そういう意味ではとても大事だと思います。

ところが、そこに行政が入り込んで、祭りとうまく繋げようとする、逆にその地域の良さが薄れてしまう可能性がある。

だから、自由な発想で自由な活動をする上で、予算も税金から出ているわけではないので自由に動いているわけです。その自由の中から盛り上がったエネルギーのほうが大事なような気がします。

そういう意味では、最初のきっかけは市がやるにしても、自由な発想の若い人たちが集まってやれるような、そういうことができるといいと思っています。

(委員長)

とても良いご意見をいただきましたので、この委員会の中でそれを落とし込んでいければと思っております。これで本日の議事は終了となりますので、私の役割は以上とさせていただきますと思います。会の円滑な進行にご協力いただきましたこと、お礼申し上げます。

(事務局)

次回は6月頃を予定しておりますが、多少前後するかもしれません。

日詰委員長と日程、それから本年度の事業の関係で、ワークショップも含めた進め方を協議させてもらいながら、企画を練っていききたいと思いますので、ぜひご協力ください。

それでは以上をもちまして第5回、条例策定検討委員会を閉会いたします。